

社会・安全・環境に関する取り組み

※以下は2007年5月期(2006年6月～2007年5月)の取り組みです。2008年5月期の取り組みは、2009年1月発行予定の「日本化薬グループのCSRレポート 2008」をご覧ください。

■持続可能性に関する基本的な考え方

日本化薬グループは、“KAYAKU spirit— 最良の製品、不断の進歩、良心の結合 —を社員が共有し、事業活動に取り組むことで、企業の社会的責任を果たし、持続可能な社会づくりに貢献します。

私たちは、レスポンシブル・ケア*の考えに基づき、積極的に「環境」「安全」「衛生」面に配慮した経営を推進すると同時に、事業活動の強みを活かした「社会活動」に取り組んでいます。

*レスポンシブル・ケア(Responsible Care):化学物質を製造または扱う企業が化学物質の開発、生産、販売、消費から廃棄に至るまでの過程において自ら積極的に「環境」「安全」「衛生」面に配慮した対策を行う活動です。1985年にカナダで誕生した後、世界に拡がり、現在では40数カ国で実施されています。

社会活動

あすなるの家

日本化薬は、医薬事業を行う企業として、1998年12月、小児がんや膠原病などの難病の治療を受ける子どもに付き添う介護者の施設「あすなるの家」を埼玉県さいたま市にオープンしました。個室10室のほか、介護者が交流を図れる共同キッチン、食堂、談話コーナー、子どもたちのプレイルームが設けられています。



ピンクリボン活動

日本化薬は、医療従事者を対象に、乳がんに関する画像診断や、治療に関する勉強会などを開催する一方、一般の方々への啓発活動にも力を入れています。毎年10月に世界的に行われる「ピンクリボン活動(乳がん啓発活動)」に協力しているほか、2006年には、乳がん情報サイト「乳がんinfoナビ」に協賛し、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の重要性を広く訴えています。



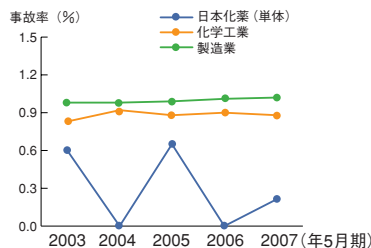
乳がんinfoナビ http://www.nyugan-infonavi.jp/n_navi/

安全操業

労働災害度数率と社外表彰

日本化薬の労働災害度数率(100万労働時間当たりの休業災害件数)は、製造業および化学工業の平均よりも低い数値で推移しています。また、厚狭工場火薬製造課(現・カヤク・ジャパン(株) 厚狭工場 火薬製造課)の信岡利英は、長年にわたり適切な安全指導を行ってきたことが評価され「平成18年度安全優良職長厚生労働大臣顕彰」を受賞しました。

[労働災害度数率の推移]



環境活動

環境マネジメントシステム

日本化薬グループは、グローバル企業として、レスポンシブル・ケアの活動を効率的に推進し、環境活動の継続的なレベルアップを図るために、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得を進めてきました。国内では日本化薬の全6工場とグループ会社の(株)ポラテクノおよび火薬アクゾ(株)が認証を取得し、海外ではチェコのインデットセイフティシステムズ社、中国の化薬化工(無錫)有限公司(KCW)、無錫宝来光学科技有限公司(WPLC)、が認証を取得しています。2007年7月には、無錫先進化薬化工有限公司(WAC)も認証を取得しています。

環境マスタープランと進捗状況

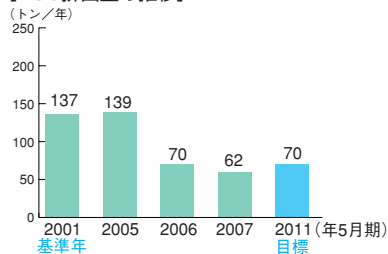
日本化薬は、「化学物質の環境排出削減」「廃棄物の削減」「地球温暖化防止」の3項目に関して、2011年5月期までの中期目標を定め、マスタープランに沿って活動を推進していきます。

化学物質の環境排出量削減

目標：2011年5月期には、VOC（揮発性有機化合物）の大気への排出量を2001年5月期比で50%削減し、70トン以下とする。

成果：2007年5月期は前期比7トン削減し、目標を達成しました。2006年5月期、福山工場に新設した光学機能性フィルムの製造設備にはVOCの排出を抑制するための排ガス処理装置を設置し、2007年5月期より稼働しました。

【VOC排出量の推移】

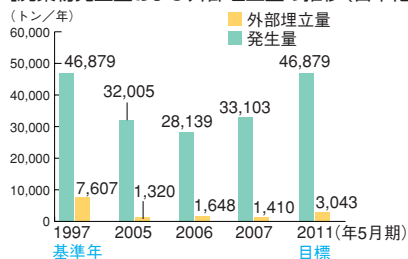


廃棄物の削減

目標：2011年5月期には、廃棄物発生量の増加を1997年5月期比でゼロに抑制する。

当期の結果：2007年5月期は目標を達成しましたが、製品需要の増加に伴い、廃棄物発生量も前期比で増加しているため、引き続き削減施策に取り組んでいきます。

【廃棄物発生量および外部埋立量の推移 (日本化薬単独)】

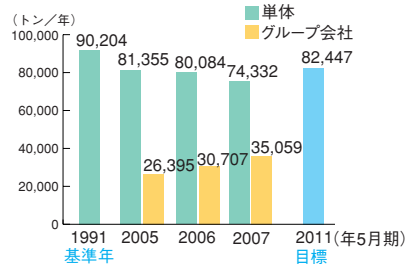


地球温暖化防止

目標：2011年5月期には、エネルギー起源二酸化炭素排出量を1991年5月期比で8.6%削減する。

当期の結果：従来から製造工程の改善、コージェネレーション（熱併給発電）の導入などを行ってきました。これにより一時的に目標を達成していますが、増産や事業範囲に拡大に伴うCO₂排出量の増加が見込まれるため、引き続き省エネルギー施策に取り組んでいきます。

【エネルギー起源のCO₂排出量の推移】



当期の主な地球温暖化防止施策は、以下の通りです。

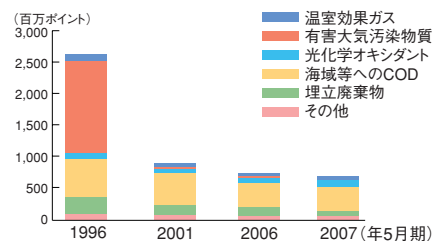
- 福山工場のボイラー燃料を、A重油から天然ガスに転換しました。
 - 厚狭工場では省エネルギー型ボイラーを導入するとともに、燃料をC重油から硫黄分の少ないA重油に転換しました。
- また、2006年4月に施行された改正省エネルギー法により、当社は特定荷主の指定を受けたため、モーダルシフトなど物流面でのCO₂排出削減にも計画的に取り組んでいきます。

環境影響ポイントの推移

日本化薬の環境活動結果を総合的に評価するために、JEPIX*による環境影響ポイントを算出しました。レスポンス・ケア活動を開始した1996年5月期と今期を比較すると、有害大気汚染物質の削減、および廃棄物削減が、総合的な環境負荷の削減に貢献していることが判ります。こういった自己評価を今後の活動につなげることで、より効果的な環境活動を実施していきたいと考えています。

*JEPIX：Japan Environmental Policy Indexの略で、環境負荷の統合手法の一つです。物質ごとに定められたエコファクター（環境影響の度合い）と排出量を積算し、これらを総計することで、事業活動全体の環境負荷を統合して表すことが可能になります。

【環境影響ポイントの推移】



環境会計

当期は、排ガス処理装置、排水処理装置、省エネルギー型ボイラーの導入などを実施しました。これらに要した環境保全コストは25億8271万円（前期比3億6914万円増）、環境保全効果は1億1528万円（同3367万円増）となっています。